

幼少の頃の思い出



整形外科 たかだ いつろう
高田逸朗先生

はじめまして、整形外科の高田逸朗と申します。本年、4月から水曜日の午前中に外来診療を担当しております。

実はこの平成病院の隣にある老松小学校の卒業生です。老松幼稚園の卒園生でもあります。ですので、幼稚園の黄色い帽子と老松(ろうしょう)色の体操服を見ると非常に懐かしくなります。卒業してから27年になりますが、この界限をうろつく機会がなかったのでずいぶんと景色や町並みが変わっていたことに驚きと戸惑いを感じました。少しそのころの風景を思い出して記してみようかと思えます。

当時はまだ平成病院はありませんでした。そこは在校中の6年間は廃工場だったと記憶しています。小学校の先生から中に入ってはいけませんと言い渡されてきました。登下校の道ではなく、こんな薄気味悪いところに入る理由も無かったのであまり意識することなく、純朴なスクールライフを送っていました。数年は。

5、6年生の多感な時期は誰にも公平に訪れます。なかなか文章にすることは憚られますが、私は小学校の先生の言いつけを破ってしまいました。詳しいことは覚えていませんが、同級生が探検気分が入ってみようと誘ってきたのがきっかけだったように思います。当時「かわぐちひろし探検隊」が流行っていたのも影響していたのでしょう。たぶん嘉門達夫の替え歌を歌いながらカメラさんの後に入っていたのでしょう。(分からない人は分かる人に歌ってもらってください。)覚えている限りは雑草が生い茂り、工場のトタン屋根は破れ、何かの機械が多少残っていたように思います。その中で、隊員の1人が大量の

雑誌を見つけました。当時、小学生であった隊員達には全く免疫が無く、見つけたとたんに誰ということもなく、奇声をあげて蜘蛛の子を散らすように工場から走り出たような気がします。うぶだったんですね。

そんなノスタルジックあふれるセピア色の思い出の場所が病院になると聞いた時、少しばかりそのニュースに残念な感情を抱いた記憶も覚えています。まさかその病院で自分が働かせていただくとは思ってもありませんでした。探検隊員達と「建設反対」のプラカードを作ったりせずに良かったとつくづく思う今です。

風景の話から逸脱してしまいました。最後に老松小学校の恩師に「言いつけを守らなくてごめんなさい」と懺悔して終わらせていただきます。

Doctor's Eyes